

2-5 光化学オキシダント(O_x)

光化学オキシダントは、オゾン、PAN(パーオキシアセチルナイトレート)等の過酸化物の総称で、窒素酸化物や炭化水素等が太陽光線の照射を受けて光化学反応を起こし生成される大気汚染物質である。そのため、光化学オキシダントの大気中濃度は気象条件によって大きく影響され、夏期にスモッグ状となり光化学スモッグが発生することがある。

2-5-1 概要

2022年度のO_xの測定は、県下35市町に設置した一般局87局で行った。環境基準評価については昼間(5時～20時)の測定がある測定局87局を対象とした。また、年平均、年最高、時間達成率(昼間の環境基準達成時間数/昼間測定時間数×100%)等の算出に当たっては、昼間の測定時間数が3750時間以上の測定局を対象とし昼間の測定値を対象とした。O_xの環境基準は測定局全局で未達成であった。昼間の年平均値は0.032ppm、日最高値が0.12ppm以上の日数は最高が6日、また、時間達成率の対象は83局で全局平均は96.1%であった。

環境基準評価	短期的評価	1時間値が0.06ppm以下であること。	長期的評価	(長期的評価は定められていない。)
--------	-------	----------------------	-------	-------------------

表2-5-1 2022年度O_x測定結果概要

局数	環境基準評価		年平均(ppm)	年最高(ppm)	日最高値0.12ppm以上日数(日)	時間達成率(%)
測定局数	87	平均	0.032	0.142	1.9	95.9
達成局数	0	最低	0.025	0.087	0	92.7
達成率(%)	0.0	最高	0.037	0.195	6	98.9
		最高値局名	銚子栄	市原五井	泉谷小学校	浦安猫実

2-5-2 測定結果

(1)地理的分布

年平均値及び年最高値の分布を図2-5-1、2-5-2に示した。2022年度の年平均値は0.025～0.037ppmの範囲にあり、北総地域、長生・夷隅地域に0.036ppm以上の測定局が見られた。

年最高値は0.087～0.195ppmの範囲にあり、葛南地域、千葉地域、市原地域、九十九里地域に0.170ppm以上の測定局が見られた。 平均値と最高値の分布は異なる傾向が見られた。

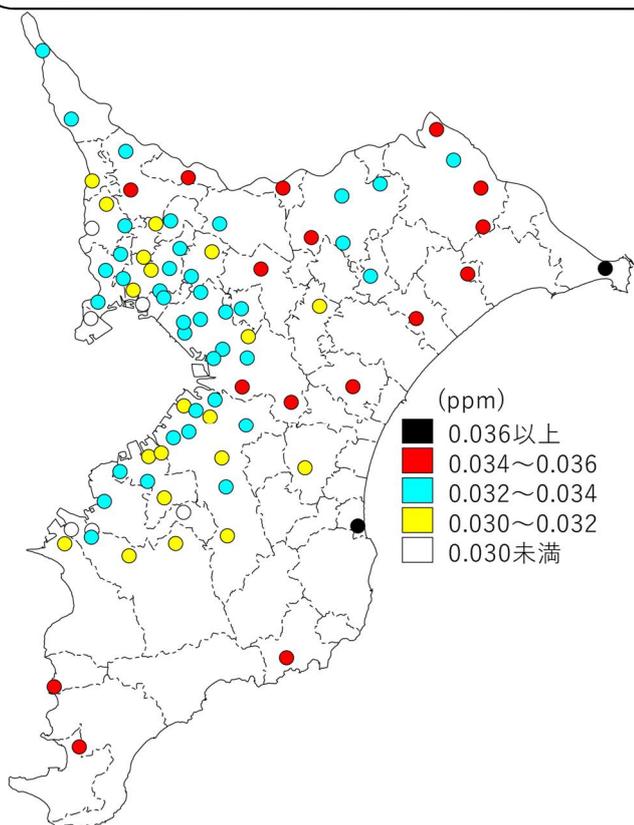


図 2-5-1 O_x年平均値の分布

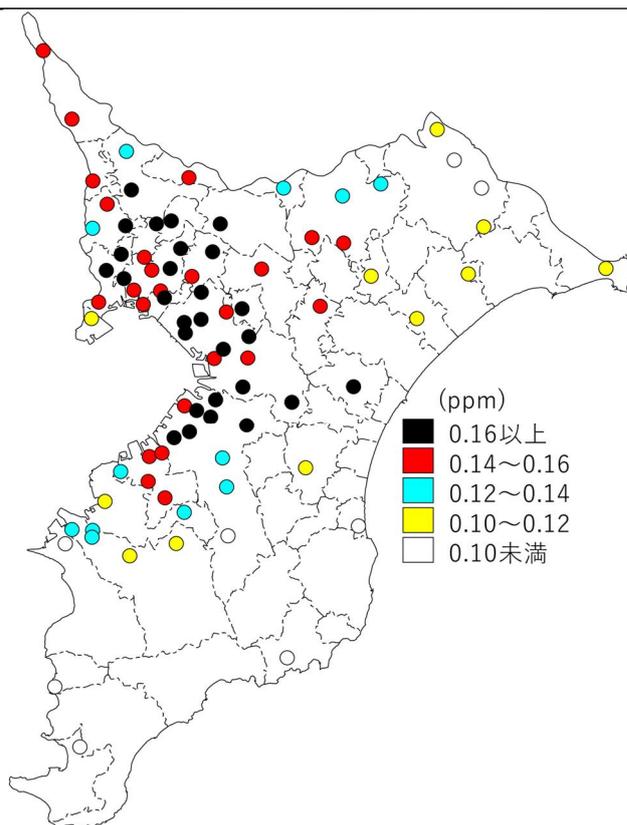


図 2-5-2 O_x年最高値の分布

(2)月平均値の経月変化

2022年度のOxの月平均値を2002、2012年度とともに図2-5-3に示した。3～6月に高く、11～1月が低い傾向があった。2022年度の月別のOx日最高値0.120ppm以上日数を2002年度、2012年度とともに図2-5-4に示した。概ね5月から9月の間に多くなる傾向が見られ、月平均値の傾向とは異なった。

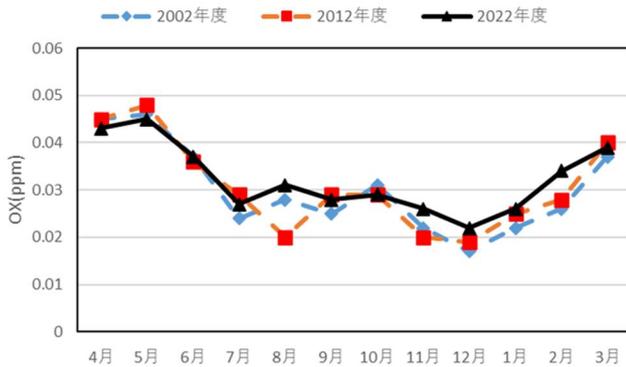


図 2-5-3 Ox月平均値の経月変化

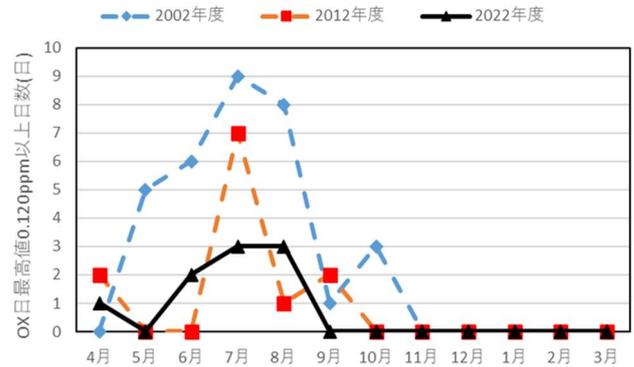


図 2-5-4 Ox日最高値0.120ppm以上日数の推移

(3)年平均値の経年推移

年平均値の経年変化について、1978年度から2022年度まで継続して測定している40局について地域別に集計し、その推移を図2-5-5に示した。1978年度以降、緩やかな上昇傾向が認められたが、近年はほぼ横ばいの傾向を示している。

地域的には、1978年度当初は野田・東葛、葛南地域が低く、印西・成田・北総地域が高い傾向が見られたが、近年は野田・東葛地域が低いほかは地域差が小さくなっている。

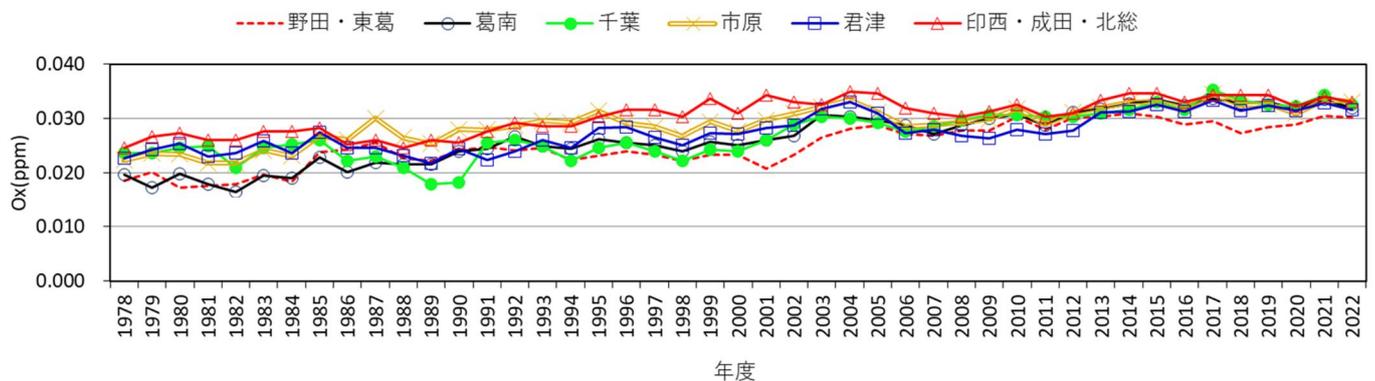


図 2-5-5 Ox年平均値の推移

1978年度から2022年度まで継続して測定している40局を地域別に集計。

(4)環境基準の達成状況

Oxの評価は短期的評価(1時間値が0.06ppm以下であること)で行う。2013年度から2022年度までのOxの環境基準達成率の推移を表2-5-2に示した。測定を開始した1977年度以降、1982年度の1局及び1986年度の2局を除き、環境基準は未達成となっており、2022年度も一般環境大気測定局全局で未達成であった。

表2-5-2 Ox環境基準達成率の推移

区分/年度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
達成局数/測定局数	0/95	0/95	0/94	0/89	0/90	0/90	0/90	0/90	0/88	0/87